

東日本大震災にて被災された皆様方に心より
お見舞申し上げます。



独立行政法人 国立病院機構

村山医療センターニュース

朝焼けの富士

理念

患者さまの視点に立ち、良質で高度な医療を提供します。

基本方針

- 患者の皆様のご権利と意思を尊重します。
- 安全で優しいチーム医療を提供します。
- 倫理を重んじ高度で先進的な医療を提供します。
- 地域医療連携の促進を図ります。
- 骨・運動器疾患の臨床研究を推進します。
- 職員は研鑽に励み、健全な経営に努めます。

第39号
2011.1

発行責任者 院長 臼井 宏

あけまして
おめでとうございます。

院長 臼井 宏



昨年4月から村山医療センターの院長を務めさせていただいている臼井です。本年最初の村山医療センターニュースをお届けするこの機会に、ひとことご挨拶申し上げます。

当院は、第二次大戦前に軍の病院として設立され、戦後は結核療養所として多くの患者さんの治療を行なった後、骨・運動器に特化した国立療養所として、脊椎疾患、リウマチ性疾患などの専門的施設としてのみでなく、広く内科、外科をはじめとして、近隣の患者さんのお役に立ってきました。平成16年4月に国立病院・療養所は140以上の施設を擁する独立行政法人国立病院機構に移管し、当院も村山医療センターという現在の名称になりました。現在も整形外科医15名、リハビリテーション科医4名、リハビリテーションの療法士40名（いずれも常勤のみ）を擁する骨・運動器の治療およびリハビリテーションを中心とする専門的施設です。国立病院機構のなかには十数組の臨床研究グループがありますが、当院はその中の骨・運動器グループのリーダーを務めています。

とくに脊椎外科の分野では、古くから多くの患者さんを治療して、指導的役割を果たしてきました。疾患で言えば、椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、脊椎の骨折や脊髄損傷、側弯症、結核性脊椎炎（脊椎カリエス）などを含み、昨年度も脊椎だけで500件以上の手術をおこないました。さらに股関節・膝関節をはじめとした関節疾患や手の外科の分野でも、多くの手術を行い、よい成績を挙げています。今後も、当院の特長である整形外科、リハビリテーション科の診療を益々発展させて行きたいと考えております。

一方、人口が増加し、高齢化も進むこの地域にあって、地域の方たちの広いニーズにお応えして行くことも大きな使命と考えています。医師不足の波は都内の病院である当院にも来ており、内科、外科の医師数が過去に比較して大幅に減っています。今年は、何とか基本的な科である内科・外科をより充実させ、地域医療での役割を今まで以上に果たして行けるよう努力する所存です。武蔵村山市の事業にも可能な限り協力し、武蔵村山市医師会・東大和市医師会をはじめとする医師会の先生方との連携をさらに強化して参ります。

今年も村山医療センターは、医療安全を第一に考え、患者の皆様の満足度を高め、職員も誇りを持って楽しく働けることを目指して参ります。皆様にとって今年がよい1年であることをお祈りするとともに、本年もよろしくお願い申し上げます。

診療科のご案内

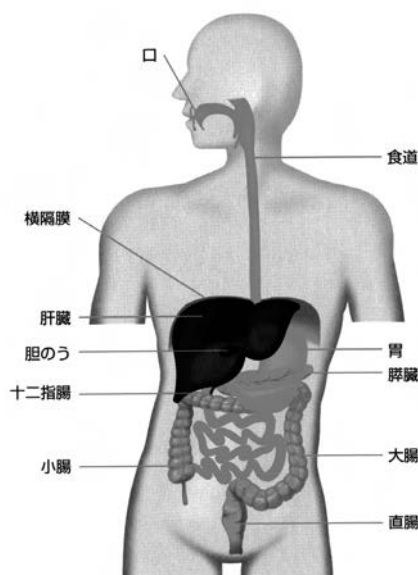
外科

統括診療部長 瀬川 徹

当院の外科では消化器領域を中心に診療をおこなっています。消化器とは、食物を消化・吸収する器官です。口から入った食物は、歯で細かく粉碎され、唾液と混ぜ合わされて消化しやすい形に変わります。そして食道を通過して胃に入ります。胃では、胃液と胃の筋肉の運動によって炭水化物やタンパク質などに分解され、十二指腸へと送られます。十二指腸では、肝臓で作られた胆汁や膵臓で作られた膵液により更に分解され、小腸へと送られます。小腸では、大部分の栄養素と水分が吸収されます。その後、消化物の残りかすは大腸に送られ、更に水分を吸収されて固形物になり、直腸から肛門をへて、便として排出されます。したがって消化器外科とは食道・胃・小腸・大腸・肛門の消化管と、肝臓・胆道・膵臓を中心とする実質臓器における疾病をもつ患者を対象とすることとなり主に腹部外科といえます。

これら臓器の障害による症状としては、腹痛、嘔吐、吐血、下血、黄疸、食欲不振、倦怠感、体重減少など様々です。おなかの痛みと一口に言っても、痛む場所、痛みの性質などはまちまちです。場所としては、上腹部としてはみぞおちに限るのか、右あるいは左に片寄っているのか、おへそのまわりか、下腹部では中央なのか、右下腹部なのか、左下腹なのか、など。痛みの性質としては、痛みは移動するか、限局しているのか、発作的に起こるのか、持続的な痛みであるのか、排便や排尿と関連するのか、食事との関連性はあるのか。また痛みに伴う症状としては、吐き気や嘔吐があるのか、吐物に血液は混入しているのか、便臭はあるか、発熱の有無はどうか、便の状態としては、色（コールタール様、鮮血、灰白色）、下痢（回数、粘血便の有無）、便秘（コロコロしている、便が細くなる）など。これらのことを担当の医師に伝えていただく必要があります。以上の問診は障害臓器を特定するのに非常に役に立ちます。

次に検査法としては内視鏡検査、超音波検査、CT、MRIなどを駆使することで正確な病気の診断が可能となります。内視鏡検査としては上部消化管検査は胃カメラで行い、下部消化管検査は大腸ファイバーで行います。また胆管・膵管系の病変の有無を調べる場合にはERCP（内視鏡的胆道膵管造影）を行うこともあります。肝臓の検査には、大きく分けて血液学的検査と形態学的検査があります。肝臓癌や肝硬変は、ウイルス性肝炎から移行することが多く、これらを判定・予防できれば、肝障害の発生を減らすことにもつながるでしょう。形態学的検査には、腹部超音波検査や、CT、MRI、血管造影検査などがあります。



本図は、よくわかる最新からだの基本としくみより転用した。

外科治療に関しては、以前は開腹手術が中心でした。手術方法も癌の手術では可能な限り広範囲の切除がなされていました。しかし摘出臓器の残った機能が術後のQOL（生活の質）の面で悪影響をきたすことから見直されるようになり、最近では小範囲切除が主流となってきました。また内視鏡治療が進歩し従来は開腹手術が行われていた腫瘍の切除が内視鏡的に、あるいは腹腔鏡的になされるようになりました。胃癌・大腸癌でも癌が粘膜内に限局している場合は転移がないことがわかっているため癌を完全に切除することで治癒が期待されるため内視鏡切除で治療が完了します。この低侵襲手術が行われることにより術後の回復が早くなり、開腹手術の場合には術後の疼痛のため2～3日はベット上で寝ていることが多かったのですが、内視鏡手術では手術翌日には食事開始となり、病棟内を術前と同様に歩行するようになります。ちなみに平成21年度の外科手術症例数189例中、内視鏡手術は104例（55%）と内視鏡手術

が半数以上を占めるようになりました。

癌治療に関しては、以前から手術が中心でしたが、最近では治療技術の進歩で種々の治療が行われています。肝癌についてはC型肝炎から肝硬変を経て肝癌が発癌することがわかっています。したがってC型肝炎の患者さんに定期的に検査を行うことで小肝癌の時期に発見し、超音波を用いて肝癌を穿刺しラジオ波で焼灼したり、肝癌の特徴として肝動脈で栄養されることを利用して選択的に肝動脈にカテーテルを誘導し、抗癌剤と塞栓物質を注入して癌を兵糧詰めにしてしまうことで肝癌を治療することも行われています。また分子標的抗癌剤の開発により抗癌剤治療が格段に進歩してきました。最近大腸癌は増加しており治療の第一選択は切除であることには変わりはありませんが、切除後の再発や切除不能の進行癌に対しても抗癌剤治療を行うことで予後の改善がみられるようになりました。

以上、当院の外科では消化器疾患の診断から治療まで幅広く診療を行っており、地域医療に務めています。今後ともよろしく願いいたします。

ご挨拶



みなさまはじめまして。私は昨年の10月に千葉医療センターから昇任で参りました花井と申します。最初は通勤が大変と思っておりましたが、最近は歴史ある樹木や紅葉を眺めながら通勤を楽しんでおります。

まだまだ、解からないことばかりで、周囲の方々に御迷惑をおかけしている毎日です。整形外科分野での医療や看護を学ばせていただきながら、皆様の回復のお手伝いをさせていただければと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

副看護部長 花井 より子



昨年10月より埼玉病院から転任で、村山医療センター企画課に勤務しております業務班長の須藤と申します。当院の基本方針にある「職員は研鑽に励み、健全な経営に努めます。」を実行に向けて、村山医療センターの一員として貢献できるよう頑張りますので、皆様よろしく申し上げます。

企画課業務班長 須藤 治幸



社会の高齢化、生活の多様化に伴い脊椎疾患は増加しています。また、日本はグローバル化の中でよりボーダレスになることが予想されます。医療界も例外ではありません。私は9月までアメリカ、ニューヨークで脊椎フェローとして勤務していました。この経験を生かし、世界レベルの医療を提供できるように力を尽くしてまいりたいと考えています。とくに脊柱変形が専門ですので、ご希望の方は気軽に受診していただければと存じます。

整形外科医師 八木 満

8 病棟

看護師長 齊藤 美 晴
副看護師長 河内 千 春
副看護師長 古澤 恵美子

8病棟は脊髄損傷の専門病棟として40床を有しています。

脊髄を損傷すると神経に障害を受け、麻痺の出現等により体が思うように動かなくなります。その原因は交通事故、転落事故、スポーツ中などの不慮の事故が多数を占めています。患者さまの大半は、急性期病院で治療を終えてリハビリテーションを目的に当院へ入院してきます。患者さまは今まで意識せずに行えていた日常生活が行えなくなったことへの戸惑いや、いらだち、今後の病状や生活に対する不安を抱えています。私たちは医師・



理学療法士・作業療法士などと多職種の医療チームで患者さまの情報を共有し、目標を立てていきます。患者さまやご家族の思いや希望も取り入れて、一人ひとりにあった在宅復帰・社会復帰をどのように目指すのか、残された機能をどのように生かしていけば自立に近づけていけるのかを考えていきます。患者さまも含めて目標を共有し、それぞれの職種の専門性を発揮して患者さまに医療を提供します。

看護師の役割は患者さまが効果的なリハビリテーションを受けられるように心身ともに整えていくこと、リハビリテーションの効果を毎日のケアの中に取り入れていくことによってそれぞれの方に合った自立をサポートしています。例えば自分では食事がとれない方に対しては、自助具の使用をしたり、食事の姿勢を整えたり等の工夫をする事で、自力で食事摂取できるように取り組んでいくことです。「出来なかった事が出来る」「一人で出来た」と喜ぶ患者さまの姿をみて私たちも喜びを共有しています。

スタッフ一同、患者さまと共通の目標に向かって感動を味わえることに、日々感謝・感激しながら頑張っています。



脊髄損傷患者さまの食事の工夫

村山医療センター主催市民公開講座 「スポーツ障害」

院長 臼井 宏

去る10月16日土曜日に、武蔵村山市市民総合センターで、市民公開講座「スポーツ障害」を開催しました。当院は1年に2回、市民公開講座を開催して、一般の方々を対象に分かりやすい講演を行なっています。今回は、スポーツによって生じるからだの障害のいくつかについて、関節や背骨の仕組みから障害の発生する原因、そして何より大事な予防方法についてお話させていただきました。

最初に町田臨床研究センター長が、綱引きの必勝法という、ちょっと珍しいお話をしました。これは、最近のNHKの番組「ためしてがってん」の内容が、当院の臨床研究センターで収録されたことから、そのエッセンスをお話したものです。普通の生徒と綱引きの全国大会で勝つような、練習を積んだ生徒の違いを分かりやすく説明しました。



本題に入って、整形外科の名越医師が野球肘と突き指のことをお話ししました。成長期の関節にはあまり負担をかけ過ぎると、永続的な問題を起こしてしまうということがお分かり頂けたと思います。

続いて、竹光整形外科医長から、腰椎分離症のお話をしました。早期であれば、手術をしなくても分離したところが治る可能性もあることをお話ししました。



整形外科の中村医師からは、膝関節の靭帯損傷、半月板損傷のお話をしました。比較的多い怪我で、スポーツ復帰のためには手術が最善の治療になる場合が珍しくありません。

最後に、町田臨床研究センター長が足首の捻挫についてお話ししました。ありふれた怪我ではありますが、損傷の程度はさまざま、繰り返して捻挫を起こしやすくなる場合もあることなどを説明しました。

心身の成長や、健康の維持に重要な役割を果たすスポーツ活動も、正しい練習、障害の予防法、必要な休養が大切です。病状によっては治療が必要ですし、手術が最善の治療という場合が少なくありません。スポーツによる障害や怪我の予防、治療をしないと、スポーツがその人にとってかえってマイナスになってしまう場合があります。「スポーツは万病のもと」になってしまっはいけません。

休憩の後、皆様の健康相談にお答えしました。

次回の第11回市民公開講座は「中高年以降に多い関節の障害」というテーマで、3月26日(土)午後開催の予定です。詳細は当院経営企画室高中にお問い合わせ下さい。

また、当院では毎週水曜日午後にはスポーツ外来を設置しております。受診方法については、電話[042-561-1221(月～金の祝日除く15時～17時)]でお問い合わせください。

自衛消防審査会に参加して

管理課庶務係長 服部 聡（指揮者）

私は、10月15日（金）に東京経済大学村山校舎において、北多摩西部消防署主催による、平成22年度自衛消防審査会に村山医療センターの代表として参加してきました。

審査会当日は、1号消火栓の部（ホースが折りたたんで収納されている）、2号消火栓の部（ホースがリールに巻かれて収納されている）併せて24事業所が参加して行われました。

審査会は、自衛消防隊が火災発見時に必要な、火災の発見、通報及び初期消火、避難誘導、屋内消火栓操作、応急手当、情報提供などを審査するものですが、病院職員として災害時に患者さまの身の安全を確保するために、何をすべきなのかを改めて学ぶ貴重な経験となりました。

リハビリテーション科

理学療法士 鈴木 基志（1番隊員）

11月15日、自衛消防審査会が行われ、私は村山医療センターの代表として参加して参りました。今回行われた自衛消防審査会とは、現職消防士の審査の下、震災による火災発生を想定し、その際に必要となる応急処置から初期消火までを実演するというものでした。今回は当院を含む24の施設・企業が参加し、各々、震災に対する自衛消防技術の向上に努めました。

実際に審査会に参加することで、震災時の対応を学ぶとともに、自衛消防への意識を高めるようになりました。日頃から自衛消防に対する意識を持ち、震災発生時には今回の経験を生かして適切な対応をとれるよう、努めたいと思います。

リハビリテーション科

作業療法士 柴山 宏明（2番隊員）

リハビリテーション科作業療法士の柴山宏明です。今回消防訓練に参加させて頂きとても勉強になったと思います。仕事の合間をぬって消防署に行き、慣れない訓練など大変でしたが、消火栓の使い方や手当ての行い方、火災や地震の際の冷静な判断など多くの事を学ぶ事ができました。

訓練の後、病院に戻ってみると消火栓や消火器の位置に意識が向くようになりました。実際に使用方法など理解していても病院のどこにあるのか把握していないと使うことができないということがよくわかりました。皆様も消火器の使用法とともに病院のどこに置いてあるかなど気にして見ていただけたらいいのではないかと思います。



言語聴覚療法

リハビリテーション科

主任言語聴覚士 青嶋 千緒実

当院は、整形外科疾患及び脊髄疾患など運動器疾患を重点におき、診療活動を行っている医療施設であるため、「運動器疾患のリハビリテーションを行う理学療法や作業療法は知っているが、言語聴覚療法という部門は初めて聞く」という方々もいらっしゃるかと思います。

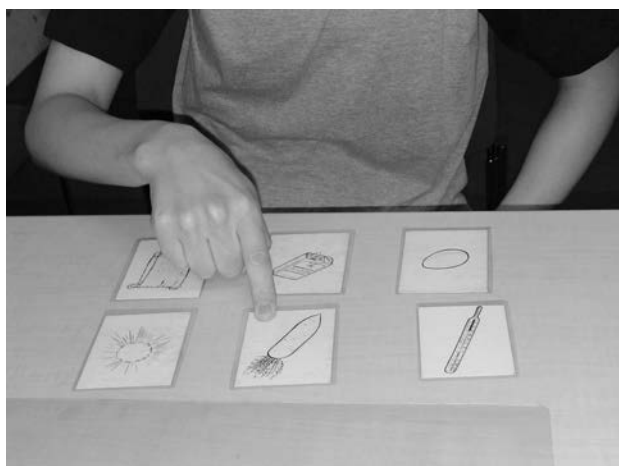
今回は、「言語聴覚療法」を行う「言語聴覚士」について、簡単ではございますが、ご紹介をさせていただきます。

言語聴覚士は、平成11年に国家資格化されました。それまでは「言語訓練士」や「言語療法士」など呼び方が様々でしたが、それ以降は、「言語聴覚士」に名称が統一されました。英語では、Speech-Language-Hearing Therapistと言うため、省略してS Tと呼ばれることもあります。

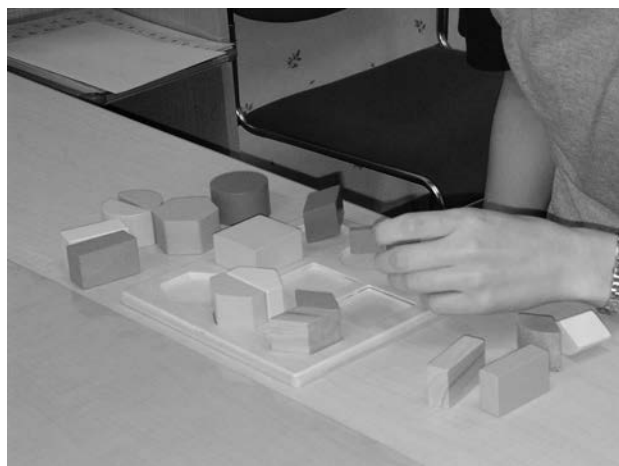
大半の言語聴覚士が、病院などの医療機関に勤務しております。最近では、福祉施設や教育機関、開業など新たなフィールドで働く言語聴覚士も増えています。当院では、平成22年11月現在、常勤3名、非常勤2名の体制をとっています。

言語聴覚士は、コミュニケーションや、食べることに障害を持つ方々の、言語や聴覚、摂食・嚥下機能の獲得・回復・維持を支援しています。

コミュニケーションに関しては、機能そのものの獲得や回復が困難な場合には、拡大・代替コミュニケーション（例：パソコン）などの訓練を行います。また、学校・職場での社会的不利の軽減を図るため、教師、職場の上司や同僚などに、専門家の立場から、さまざまな助言や指導を行なうこともあります。



当院の言語聴覚士は主に、「頭の中では分かっているけれど、うまく言葉で伝えられない」、「人の言っていることが理解できない」などの言語症状を呈する「失語症」、発声・発語器官の麻痺で言葉が不明瞭になり、相手にうまく意思が伝えられない「運動性構音障害」、麻痺などにより、むせ込みなどが生じ、うまく食べ物が飲み込めなくなる「摂食・嚥下障害」のほか、注意力や記憶力が低下し、複雑な動作が行えないなど日常生活に支障をきたす「高次脳機能障害」などの障害をお持ちの患者様に対し、円滑に日々が過ごせるよう一対一で訓練や指導を行っています。



私たち言語聴覚士は、常に最良のサービスを患者様に提供できるよう、他科のスタッフと連携をとりながら、日々努力していきたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

飲み物のエネルギー

「肥満症」で栄養相談を受けられる方の中には、一回の食事量が多く、摂取エネルギーが多すぎる方や、一回の食事量は適量なのに間食・飲み物からのエネルギーが多すぎる方などがあります。体の調子が悪く、食欲がない時には少しでもエネルギーのある食物が摂りたいところですが、減量をしたい時には少しでも摂取エネルギーを減らしたいものです。体重管理が必要な方は、よく飲んでる飲み物のエネルギーを確認してみましょう。

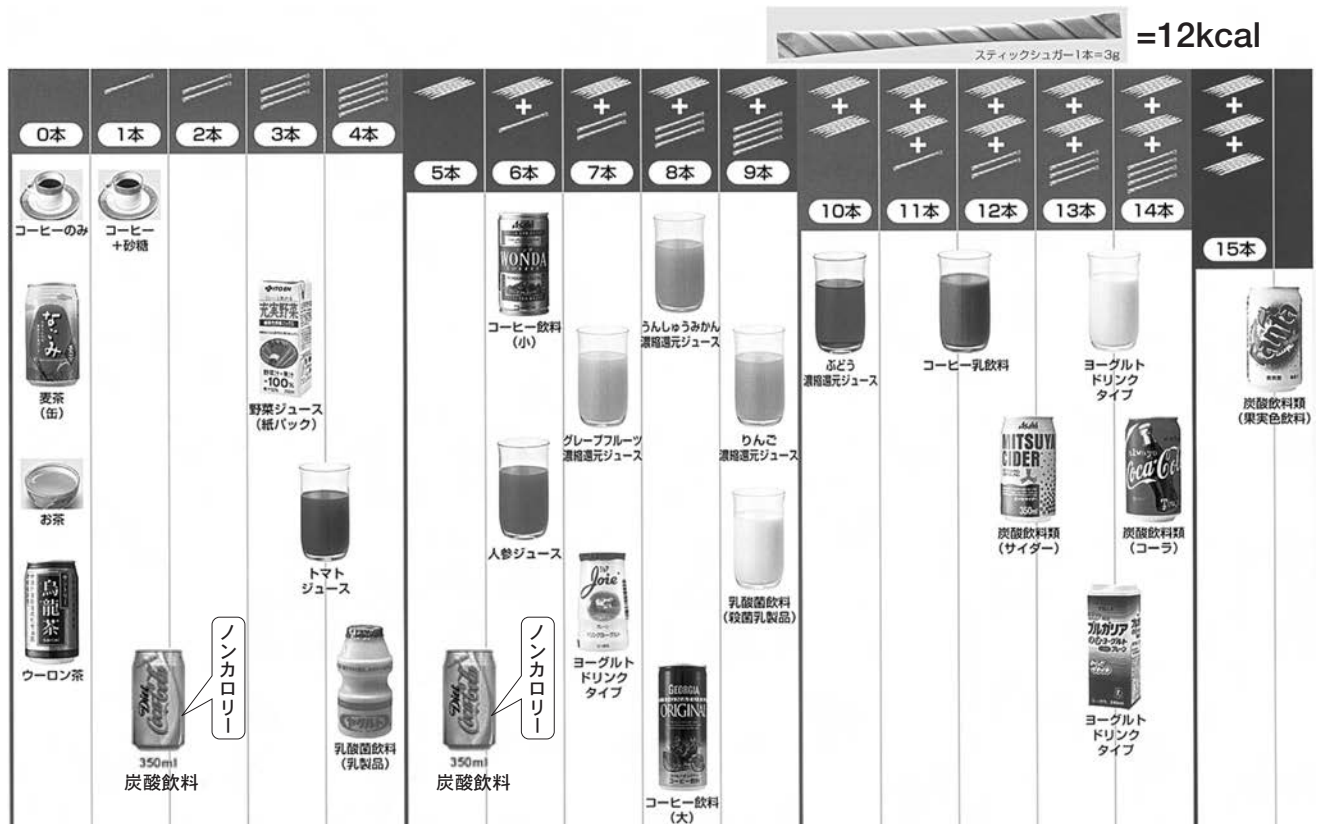
栄養管理室 山田 直子

摂りすぎに注意！

自分の飲んでいる飲み物からとる糖分の目安

のどが渴いたら、砂糖をゴクゴク飲んで？

～清涼飲料水のエネルギー量を砂糖で表示～



注) 「カロリーオフ」でも、100mlあたり20kcal以下のエネルギー量があります。
「ノンカロリー」でも、100mlあたり5kcal未満のエネルギー量があります。

表中のコップ1杯分は250ml

(参考) 生活習慣病予防のための食べ方ナビゲーション たべナビ君
吉池信男、玉川ゆかり、中神聡子共著(独立行政法人 国立健康・栄養研究所)

参考) 厚生省生活衛生局食品保健課新開発食品保健対策室長通知：
栄養表示基準等の取扱いについて、平成17年7月1日食安新発第0701002号改定

患者さまの権利と責任

1. 個人の人格は尊重され、安全で良質な医療を受ける権利があります。
2. 自分の受ける医療について、十分な説明を受けた上で自分の意思で医療の選択をする権利があります。
3. 自分の受ける医療に対し、不明な点は質問することができ、診療情報の提供を受けたり、開示を求める権利があります。
4. 個人の情報を直接医療に関わる医療従事者以外の第3者に開示されない権利があります。
5. 自分の受ける医療について、別の病院を受診したり転院することができます。その際、十分な診療情報の提供を受ける権利があります。
6. 自分の健康に関する情報を正しく提供し、また他の患者の診療に支障をあたえず、医療従事者と協働して医療に参加する責任があります。

臨床倫理指針

1. 患者さまの人格、信仰、意思等を尊重し、説明と同意に基づく患者さまの自己決定を優先します。
2. 患者さまのプライバシーを尊重し、守秘義務の遵守と個人情報の保護を徹底します。
3. 患者さまの尊厳及び人権に関わる医療については、臨床倫理委員会で審議を行い、方針を決定します。
4. 関係法規、ガイドラインを遵守し、検査・診断・治療・研究を行います。
5. 医療の発展のために積極的に臨床研究を行い、その実施においては倫理審査委員会において十分検討をおこないます。

平成23年度患者数の推移

【入院】（1日平均入院患者）

診療月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
合計	190.5	196.3	204.2	214.9	225.6								206.4

【外来】（1日平均外来患者）

診療月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
合計	211.4	216.5	202.9	203.1	201.9								206.8

外 来 診 療 担 当 医 師

H23.1現在

受付時間	診療科等	月	火	水	木	金	備考	
一般外来	内科	山 縣	山 縣	山 縣	原 田	杉 本 志 方		
	外科	瀬 川	瀬 川	(手術日)	瀬 川	※瀬 川	※第2金曜、第4金曜 の診察時間は 10:00~12:00です	
	整形外科	再診	臼井[関・整] 竹光[脊・整] 村上[関・整]	福田[脊・整] 加藤[脊・整] 名越[脊・整] 中村[関・整]	湯田[脊・整] 武田[関・整] 八木[脊・整] 非常勤医[手]	町田[脊・整] 金子[脊・整]	笹崎[関・整] 五十嵐[脊・整] 飯塚[脊・整]	黒字：側 弯 白字：脊髄損傷
		初診	交替制	交替制	交替制	交替制	交替制	
	リハビリテーション科	白 井	植 村	森	松 浦	交替制 第5金曜日は休診	第1金曜…森 2 …植村 3 …白井 4 …松浦	
歯 科	宮 本	宮 本	宮 本	宮 本	宮 本	宮 本	予約制	
特殊外来	内科 リウマチ				山 縣		予約制	
	整形外科 スポーツ外来(下肢)			笹崎・武田 村上			※毎週交替 予約制	
	側 弯	斎藤(正) 第4週のみ				町田・福田 第2・3週	予約制	
	骨粗鬆症				町 田		予約制	
	装具外来 (リハ棟)	植村・森 白井・松浦(※午後)		植村・森 白井・松浦(※午前)			予約制	
8:30~ 12:00	セカンドオピニオン (整形外科)		○				予約制	
検査・手術	X線テレビ	脊髄造影	ERCP・血管造影 内科・外科	嚥下造影	ERCP・血管造影 内科・外科	胃透視・注腸造影 膀胱造影・脊髄造影	午 前 午 後	
		MRI	予 約 制					
	手 術	整形外科	整形外科	外科・整形外科	整形外科	整形外科		
	内 視 鏡				胃 大 腸		午 前 午 後	
	そ の 他		筋電図				午 後	
	超 音 波	○	○	○	○	○	午 前	
	脳 波		○	○			午 後	
	心エコー	○			○		午 前	

診療について

診 療 日 月曜日～金曜日（祝日及び年末年始は除く）
 診療受付時間 初診の方 午前8時30分～午前11時00分
 再診の方 午前8時30分～午前12時00分

※急患は（整形外科）随時受付けております。

専門外来については医事窓口にてお問合せ下さい。

毎月初めに保険証の提示をお願いします。変更のあった場合はお知らせ下さい。

整形専門分野
 (脊) 脊椎・脊髄
 (関) 股・膝関節・下肢
 (手) 手・上肢
 (整) 整形一般

独立行政法人国立病院機構 村山医療センター
 〒208-0011 東京都武蔵村山市学園2-37-1
 TEL 042-561-1221 (代) FAX 042-564-2210
 URL : <http://www.murayama-hosp.jp/>

■地域連携医療機関の紹介

尾崎胃腸科・外科病院

十二年余り勤務した国療村山病院（現村山医療センター）を退職し、平成三年立川市に診療所を開設しました。立川市で八年間開業していましたが、施設が狭小で設備の充実が望めないこともあり、平成十一年現在の当市残堀に移転しました。病院勤務医から開業医になった当初は、環境の変化にとまどいつつ手探り状態で診療したものです。色々な開業形態はあると思いますが、自分のめざす開業医像を模索し、専門性を生かした診療スタイルが見えてきました。消化器病専門医として、消化器疾患を中心に外来で可能な範囲のできるだけ高度な医療を心がけています。上部、下部内視鏡検査、CTスキャン、エコー等を積極的に行い、癌の早期発見、術後管理等を通じて地域における癌死亡率の低下に微力ながら貢献できるよう努力しています。その他消化性潰瘍、炎症性腸疾患、胆石症、機能的胃腸症等の良性疾患も数多く扱っています。胃十二指腸潰瘍に関しては、ピロリ菌除菌療法が登場してから治療は一変しました。最近胃癌とピロリ菌の関連も示唆されており、可能なかぎり除菌療法を行っております。当院では赤外分光分析装置を早くから導入し、三十分でピロリ菌の存在診断が可能です。

癌の治療に関しては、手術療法が中心になります。その点で村山医療センター外科には大変お世話になっております。手術症例のみならず、手術不能な進行癌でも引き受けていただき責任をもって診ていただける姿勢に尊敬の念を禁じえません。このようなよい連携病院に恵まれていることを、患者さん共々幸せに思います。今度ともよろしくご指導、ご鞭撻くださいますようお願いいたします。



院長 尾崎 彰 先生



診療科

内科／消化器科／外科

受付時間

月・火・木・金	9：00～12：00
	15：00～19：00
土	9：00～12：30

休診日

水・日・祝日

住所 東京都武蔵村山市残堀2-14-1

電話 042-531-8998